

株式会社 十八測量設計

設立：1968年12月
所在地：熊本市中央区新大江
事業内容：建設コンサルタント
従業員数：53名

令和2年12月現在

テレワーク導入をためらっているなら
社員それぞれのライフステージを尊重し
まずチャレンジすることが大事。



テレワーク導入目的

新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、社員の感染予防と安全確保のため出勤率を減らすこととした。

最初は分散出勤による感染予防対策をたてたが、令和2年4月から総務部と技術部でリモートデスクトップ（会社のパソコン端末等のデスクトップ環境をテレワーク端末から遠隔操作したり閲覧したりする方法）を用い、試用期間として2週間のテレワークを実施した。

テレワーク形態

<対象者> 全部署、全社員

<作業場所> 自宅

<頻度> コロナ禍では総務部で一部、技術部で全員実施。現在はチームや部署ごとに実施可能か相互に確認しながら2～3割の出勤人数削減を目標に現在も実施している

<形態> 在宅勤務時は電話対応が可能な状態にしておく、家族の看護が必要な時などは安心して看護に専念できるように在宅勤務不可とするなどのルールを作った。テレワーク実施ごとに業務内容と事後アンケートを提出してもらい、満足度や問題点、次回の改善点などを都度打合せして運用している

導入にあたっての課題や不安をどう克服したか

課題や不安	克服方法
○ 在宅勤務が本当にできるか	・テレワーク導入前、社員に在宅勤務に関するアンケートを実施し、その結果により交代勤務、出社が必要な業務、テレワーク可能な業務、不可能な業務の選別を行い、テレワーク可能な業務から実施
○ 電話の取次ぎをどうするか	・IP電話（インターネットに接続して音声を届ける通話方法）を導入し、スマートフォンに取り次げるようにした
○ 社内蔵書の閲覧ができない	・10年以上前から主要なもの、使用頻度が高いものから徐々に電子化を進めていたので役立った

実際にテレワークを行ってからの問題及びそれをどう克服したか

課題や不安	克服方法
○ 取引先への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染対策として個別に電話、ホームページ掲載など理解を求めるアナウンスを実施
○ 使用機器	<ul style="list-style-type: none"> ・会社備品のノートパソコンや自宅のパソコンを使用
○ 自宅 PC とオフィス PC のスペック差異	<ul style="list-style-type: none"> ・QT ネットのリモートデスクトップソフトウェアを利用しているため、自宅 PC からオフィス PC のスペックで業務を行える
○ ノートパソコンによる設計作業は画面が小さいため作業効率が下がる	<ul style="list-style-type: none"> ・会社備品の大型モニターを貸し出すことで対応
○ 在宅勤務実施の申請方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク実施前に物品借用書を提出することにより申請
○ 始業・終業時刻、時間外労働の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートで勤怠管理ソフトに始業、終業時刻を入力しており、Zoom や Microsoft Teams を使用したチーム単位でのリモート朝礼、終礼にて業務の引継ぎを実施
○ 作業の進捗状況はどのように把握するか	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートデスクトップにより仕事の進捗状況を管理し、設計に関しては成果物の仕上がりにより把握
○ 複合機での大量印刷が在宅勤務では困難（印字しなければ気づけないミスもあり、紙の図面でのチェック作業は困難）	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークではデータ上で完結する作業を選択し、紙での作業はオフィスワークで行うようにした ・給与明細は全て Web で閲覧できるようにするなど、ペーパーレス化も進めている

実施後のメリットなど

- 会社を存続していくことや働き方の多様化のためにテレワークは大変有効である
- 社員から家庭の仕事を分担することで家族に感謝され幸せ感が UP した
- 通勤時間がなくなり生活に余裕ができたとの報告があった
- テレワークにより仕事意識の高い者、無頓着な者など仕事の見える化が可能となった
- 出先で資料のあるサーバにアクセスし打ち合わせを行ったり、パソコンがない場合にはスマートフォンで作業したりするなど、実生活にも活かすことができている

